



海の祭典! 塩竈みなと祭

みこし 「神輿海上渡御」を支える「海上部会」

勇気と元気を与える海上渡御

戦後の産業復興と市民の元気・活力の回復を願って始められた『塩竈みなと祭』は、日本三大船祭りの一つに数えられるほど、海の祭典として全国有数の規模を誇ります。

東日本大震災が起きた平成23年には、規模を縮小しながらも海上渡御を開催するなど市民に勇気と元気を与え続けてきました。その海上渡御を支えてきたのが「海上部会」の方々です。



◀
見どころの一つでもある御発船。西ふ頭前を1周半してから松島・浦戸諸島に向かいます

20団体、100隻を超える船団で盛り上げる

海上渡御は、本市の遊漁船組合を中心とした20団体の協力で行われています。海上渡御を取りまとめる海上部会長の鈴木さんは「定期的に打ち合わせを行っており、毎年安全に航行できています。また、震災後、海離れが進んでいたこともあり、お子さんも楽しめる体験乗船を4年前から行っています。こんなに多くの遊漁船などが集まるのはみなと祭だけです。大漁旗を掲げた船団の素晴らしい光景を目の前で見たいです。」とお話いただきました。

供奉船体験乗船(先着150人)

とき	7月16日(月) 14:00~15:00
受付	マリゲート塩釜 市営汽船貨物受付所
申込	当日受け付けに直接お越しください。



海上部会部会長
鈴木哲郎さん

問 塩竈みなと祭協賛会 ☎361-6055

シリーズ

塩竈の魅力再発見③

「風の音、波の音、 浦戸には人をひきつける音がある」



「外から来ると、浦戸は別世界ですよ。聞こえてくる音が毎日違うことは、島だからこそ気付くのかもしれません。」と話したのは、観光振興ビジョン推進メンバーの遠藤勝さん。

島を案内してくれた遠藤さんは、途中、風に吹かれる大きなタブの木の下で立ち止まりました。「季節によって音が違うんだよ。春は葉が柔らかいから優しい音に聞こえるんだよ。」と教えてくれました。

次の場所を伝えられないまま、両わきを木々で囲まれた細い道を進んでいくと、目の前にぱっと海が広がりました。

「行き先は秘密のほうが、冒険心がわいて、その分感動が大きいでしょ。ここで海を見ながら波の音を聞くんだよ。」と満面の笑みを見せました。

遠藤さんは「風の音や波の音が聞こえる浦戸には、人をひきつける魅力があるかもしれないね。」と話しました。

皆さんも、浦戸諸島に行って島で音の魅力を体感してみませんか。

皆さんが発見した塩竈の魅力を下記のメールにて教えてください。



観光振興ビジョン
推進メンバー
遠藤 勝さん

問 観光交流課人・まち交流係 ☎364-1165
Eメール kankou@city.shiogama.miyagi.jp

